

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

来院時データ

受傷日 (yyyy/mm/dd) 受傷時刻 (HH:MM 24時間表記)

来院日 (yyyy/mm/dd) 来院時刻 (HH:MM 24時間表記)

イントリ-時GCS

- | | | | | | |
|---|---------------------------------|---|---------------------------------|---|---------------------------------|
| E | <input type="radio"/> 4 自発開眼 | V | <input type="radio"/> 5 見当識あり | M | <input type="radio"/> 6 命令に従う |
| | <input type="radio"/> 3 呼びかけで開眼 | | <input type="radio"/> 4 会話混乱 | | <input type="radio"/> 5 刺激部位を認識 |
| | <input type="radio"/> 2 痛刺激で開眼 | | <input type="radio"/> 3 不适当的な単語 | | <input type="radio"/> 4 逃避反応 |
| | <input type="radio"/> 1 開眼なし | | <input type="radio"/> 2 理解不能な音声 | | <input type="radio"/> 3 異常屈曲 |
| | | | <input type="radio"/> 1 発声なし | | <input type="radio"/> 2 異常伸展 |
| | | | | | <input type="radio"/> 1 反応なし |

GCS

イントリ-を決定した時点でのGCSを入力して下さい。
挿管している患者では挿管前の評価を採用して下さい。

来院時血圧 / mmHg

心拍数 bpm

来院時瞳孔径 / mm
左 右

来院時対光反射 有 無 / 有 無
左 右

来院時CT所見

Day0とDay7のCT画像は何らかの手段で電子媒体(MO, FD, CD-Rなど)に取り込み、主任研究者あてに郵送してください。

初回ICP mmHg ドレナージ後ICP mmHg

同意の有無 有 無

前へ

次へ

医療機関名 科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号 割付 麻酔方法

治療1

確認のため割り付けられた治療を再度入力してください。

体温 軽度低体温群 対照軽微低体温群 麻酔法 M (ミダゾラム) 群 NLA群

手術の有無 有 無 ※手術無しの場合は以下の項目は入力不要

手術開始日 手術開始時刻

手術終了日 手術終了時刻

術式

麻酔法 麻酔中も各群の体温を維持して下さい。麻酔記録のコピーを提出して下さい。

軽度低体温の有無 有 無 ※対照軽微低体温群の場合は以下の項目は入力不要

導入日
 体温35.5℃以下確認日
 体温34.0℃以下到達日
 復温開始日
 復温達成日
 (yyyy/mm/dd)

導入時刻
 体温35.5℃以下確認時刻
 体温34.0℃以下到達時刻
 復温開始時刻
 復温達成時刻
 (HH:MM) 24時間表記

復温達成とは深部体温が36.0℃以上で安定した状態になることとします。
 深部体温とは内頸静脈血温を指し、これが測定できない場合には血液温
 あるいは膀胱温、鼻咽頭温とします。

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

治療2

使用した鎮静・鎮痛・筋弛緩薬

ミダゾラム使用の有無 有 無
(ドルミカム[®])

初回投与量 mg

持続投与量 mg/h

ドロペリドール使用の有無 有 無
(ドロレプタン[®])

初回投与量 mg

持続投与量 mg/h

フェンタニール使用の有無 有 無
(フェンタネスト[®])

初回投与量 mg

持続投与量 mg/h

ベクロニウム使用の有無 有 無
(マスキュラックス[®])

初回投与量 mg

持続投与量 mg/h

パンクロニウム使用の有無 有 無
(ミオブロック[®])

初回投与量 mg

持続投与量 mg/h

その他の鎮痛薬を使用した場合には以下に投与量、投与方法を記入して下さい。
バルビツレートは持続投与は不可（非持続投与は可）とします。

薬剤名1

投与量、投与方法

薬剤名2

投与量、投与方法

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名 科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号 割付 麻酔方法

データ 1 (Day 0, Day 1, Day 3, (復温前日)、復温後 1~2 日)

DAY 0 (軽度または軽微低体温療法導入前)

データ採取日 データ採取時刻

内頸静脈温 °C 肺動脈温 °C 鼓膜温 °C 膀胱温 °C 脳温 °C

血圧 / mmHg 平均血圧 (mmHg)

頭蓋内圧 (ICP) mmHg 脳灌流圧

吸入酸素濃度 (F_iO₂) 動脈血酸素飽和度 (SaO₂) %

動脈血酸素分圧 (PaO₂) mmHg 内頸静脈血酸素飽和度 (SjvO₂) %

二酸化炭素分圧 (PaCO₂) mmHg

動脈血pH

心拍出量 (CO) L/min

中心静脈圧 (CVP) mmHg

肺動脈楔入圧 (PCWP) mmHg

心係数 (CI) L/min/m²

全身末梢血管抵抗 (SVR) dyne · sec · cm⁻⁵

全身末梢血管抵抗係数 (SVRI) dyne · sec · cm⁻⁵/m²

混合静脈血酸素飽和度 (SvO₂) %

ヘモグロビン (Hb) g/dL

酸素供給量 ml/min

酸素消費量 ml/min

酸素摂取率

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善機序と臨床的評価

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

データ2 Day 0、Day 1、Day 3、(復温前日)、復温後 1~2日

DAY 0 (軽度または軽微低体温療法導入前)

RBC × 10⁴/mm³ Bil mg/dL
 Hb g/dL Alb U/L
 WBC /mm³ AST (GOT) U/L
 Hct % ALT (GPT) U/L
 Plt × 10⁴/mm³ LDH U/L

CK U/L
 BUN mg/dL
 Cre mg/dL
 Na⁺ mEq/L
 K⁺ mEq/L
 Cl⁻ mEq/L
 Ca²⁺ mEq/L
 Mg²⁺ mEq/L
 BS mg/dL

APTT % sec
 PT % sec
 Fib mg/dL
 FDP UG/ml
 D-タマー UG/ml
 AT-III %

尿潜血 - ± + ++ +++

尿糖 - ± + ++ +++

尿蛋白 - ± + ++ +++

尿カトリー - ± + ++ +++

ECG (12誘導)

洞調律 上室性期外収縮
 心房細動 心室性期外収縮

心拍数 bpm

その他

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名 科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号 割付 麻酔方法

データ 1 Day 0、Day 1、Day 3、(復温前日)、復温後 1~2 日

DAY 1 (軽度または軽微低体温療法導入翌日)

データ採取日 データ採取時刻

内頸静脈温 °C 肺動脈温 °C 鼓膜温 °C 膀胱温 °C 脳温 °C

血圧 / mmHg

平均血圧 (mmHg)

頭蓋内圧 (ICP) mmHg

脳灌流圧

吸入酸素濃度 (F_iO₂)

動脈血酸素飽和度 (SaO₂) %

動脈血酸素分圧 (PaO₂) mmHg

内頸静脈血酸素飽和度 (SjvO₂) %

二酸化炭素分圧 (PaCO₂) mmHg

動脈血pH

心拍出量 (CO) L/min

心係数 (CI) L/min/m²

中心静脈圧 (CVP) mmHg

全身末梢血管抵抗 (SVR) dyne · sec · cm⁻⁵

肺動脈楔入圧 (PCWP) mmHg

全身末梢血管抵抗係数 (SVRI) dyne · sec · cm⁻⁵/m²

混合静脈血酸素飽和度 (SvO₂) %

酸素供給量 ml/min

ヘモグロビン (Hb) g/dL

酸素消費量 ml/min

酸素摂取率

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

データ2 Day 0、Day 1、Day 3、(復温前日)、復温後1~2日

DAY 1 (軽度または軽微低体温療法導入翌日)

RBC	<input type="text"/>	× 10 ⁴ /mm ³	Bil	<input type="text"/>	mg/dL
Hb	<input type="text"/>	g/dL	Alb	<input type="text"/>	g/dL
WBC	<input type="text"/>	/mm ³	AST (GOT)	<input type="text"/>	U/L
Hct	<input type="text"/>	%	ALT (GPT)	<input type="text"/>	U/L
Plt	<input type="text"/>	× 10 ⁴ /mm ³	LDH	<input type="text"/>	U/L
			CK	<input type="text"/>	U/L
			BUN	<input type="text"/>	mg/dL
			Cre	<input type="text"/>	mg/dL
APTT	<input type="text"/>	sec	Na ⁺	<input type="text"/>	mEq/L
PT	<input type="text"/>	sec	K ⁺	<input type="text"/>	mEq/L
Fib	<input type="text"/>	mg/dL	Cl ⁻	<input type="text"/>	mEq/L
FDP	<input type="text"/>	μg/ml	Ca ²⁺	<input type="text"/>	mEq/L
D-タ イマー	<input type="text"/>	μg/ml	Mg ²⁺	<input type="text"/>	mEq/L
AT-III	<input type="text"/>	%	BS	<input type="text"/>	mg/dL

尿潜血 - ± + ++ +++

尿糖 - ± + ++ +++

尿蛋白 - ± + ++ +++

尿カトリー - ± + ++ +++

ECG (モニター心電図可)

洞調律 上室性期外収縮

心房細動 心室性期外収縮

心拍数 bpm

その他

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と経済費評価

医療機関名 科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号 割付 麻酔方法

データ 1 Day 0、Day 1、(Day 3、) (復温前日)、復温後 1～2日

DAY 3 (この翌日[DAY4]より復温を開始する場合には[復温前日]のページ記入不要)

データ採取日 データ採取時刻

内頸静脈温 °C 肺動脈温 °C 鼓膜温 °C 膀胱温 °C 脳温 °C

血圧 / mmHg 平均血圧 (mmHg)

頭蓋内圧 (ICP) mmHg 脳灌流圧

吸入酸素濃度 (F_iO₂) 動脈血酸素飽和度 (SaO₂) %

動脈血酸素分圧 (PaO₂) mmHg 内頸静脈血酸素飽和度 (SjvO₂) %

二酸化炭素分圧 (PaCO₂) mmHg

動脈血pH

心拍出量 (CO) L/min

中心静脈圧 (CVP) mmHg

肺動脈楔入圧 (PCWP) mmHg

心係数 (CI) L/min/m²

全身末梢血管抵抗 (SVR) dyne · sec · cm⁻⁵

全身末梢血管抵抗係数 (SVRI) dyne · sec · cm⁻⁵/m²

混合静脈血酸素飽和度 (SvO₂) %

酸素供給量 ml/min

ヘモグロビン (Hb) g/dL

酸素消費量 ml/min

酸素摂取率

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

データ2 Day 0、Day 1、Day 3、(復温前日)、復温後1~2日

DAY 3 (この翌日[DAY4]より復温を開始する場合には[復温前日]のページ記入不要)

RBC × 10⁴/mm³ Bil ng/dL
 Hb g/dL Alb U/L
 WBC /mm³ AST (GOT) U/L
 Hct % ALT (GPT) U/L
 Plt × 10⁴/mm³ LDH U/L

APTT % sec Na⁺ mEq/L
 PT % sec K⁺ mEq/L
 Fib mg/dL Cl⁻ mEq/L
 FDP UG/ml Ca²⁺ mEq/L
 D-ダイマー UG/ml Mg²⁺ mEq/L
 AT-III % BS ng/dL

尿潜血 - ± + ++ +++
 尿糖 - ± + ++ +++
 尿蛋白 - ± + ++ +++
 尿カトリー - ± + ++ +++

ECG (モニター心電図可)

洞調律 上室性期外収縮
 心房細動 心室性期外収縮

心拍数 bpm

その他

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名 科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号 割付 麻酔方法

データ 1 Day 0、Day 1、Day 3、(復温前日)、復温後 1~2日

復温前日 (対照軽微低体温群、あるいはDAY4以前から復温を開始した症例では記入不要)

データ採取日 データ採取時刻

内頸静脈温 °C 肺動脈温 °C 鼓膜温 °C 膀胱温 °C 脳温 °C

血圧 / mmHg 平均血圧 (mmHg)

頭蓋内圧 (ICP) mmHg 脳灌流圧

吸入酸素濃度 (F_iO₂)
 動脈血酸素分圧 (PaO₂) mmHg 動脈血酸素飽和度 (SaO₂) %
 二酸化炭素分圧 (PaCO₂) mmHg 内頸静脈血酸素飽和度 (SjvO₂) %
 動脈血pH

心拍出量 (CO) L/min
 中心静脈圧 (CVP) mmHg
 肺動脈楔入圧 (PCWP) mmHg
 心係数 (CI) L/min/m²
 全身末梢血管抵抗 (SVR) dyne · sec · cm⁻⁵
 全身末梢血管抵抗係数 (SVRI) dyne · sec · cm⁻⁵/m²
 混合静脈血酸素飽和度 (SvO₂) %
 ヘモグロビン (Hb) g/dL
 酸素供給量 ml/min
 酸素消費量 ml/min
 酸素摂取率

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

データ2 Day 0、Day 1、Day 3、((復温前日)、復温後 1~2日

復温前日 (対照軽微低体温群、あるいはDAY4より復温を開始した症例では記入不要)

RBC × 10⁴/mm³ Bil mg/dL
 Hb g/dL Alb IU/L
 WBC /mm³ AST (GOT) IU/L
 Hct % ALT (GPT) IU/L
 Plt × 10⁴/mm³ LDH IU/L

CK IU/L
 BUN mg/dL
 Cre mg/dL
 Na⁺ mEq/L
 K⁺ mEq/L
 Cl⁻ mEq/L
 Ca²⁺ mEq/L
 Mg²⁺ mEq/L
 BS mg/dL

APTT % sec
 PT % sec
 Fib mg/dL
 FDP μg/ml
 D-タマ μg/ml
 AT-III %

尿潜血 ○ - ○ ± ○ + ○ ++ ○ +++
 尿糖 ○ - ○ ± ○ + ○ ++ ○ +++
 尿蛋白 ○ - ○ ± ○ + ○ ++ ○ +++
 尿pH ○ - ○ ± ○ + ○ ++ ○ +++

ECG (モニター心電図可)

洞調律 上室性期外収縮
 心房細動 心室性期外収縮

心拍数 bpm

その他

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名 科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号 割付 麻酔方法

データ 1 Day 0、Day 1、Day 3、(復温前日)、(復温後 1~2日)

復温後 1~2日目 (36°C以上の体温で安定した時期。対照軽微低体温群ではDAY5)

データ採取日 データ採取時刻

内頸静脈温 °C 肺動脈温 °C 鼓膜温 °C 膀胱温 °C 脳温 °C

血圧 / mmHg 平均血圧 (mmHg)

頭蓋内圧 (ICP) mmHg 脳灌流圧

吸入酸素濃度 (F_iO₂) 動脈血酸素飽和度 (SaO₂) %

動脈血酸素分圧 (PaO₂) mmHg 内頸静脈血酸素飽和度 (SjvO₂) %

二酸化炭素分圧 (PaCO₂) mmHg

動脈血pH

心拍出量 (CO) L/min

中心静脈圧 (CVP) mmHg

肺動脈楔入圧 (PCWP) mmHg

心係数 (CI) L/min/m²

全身末梢血管抵抗 (SVR) dyne · sec · cm⁻⁵

全身末梢血管抵抗係数 (SVRI) dyne · sec · cm⁻⁵/m²

混合静脈血酸素飽和度 (SvO₂) %

酸素供給量 ml/min

ヘモグロビン (Hb) g/dL

酸素消費量 ml/min

酸素摂取率

前へ

次へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

データ2 Day 0、Day 1、Day 3、(復温前日)、復温後 1~2日

復温後1~2日目 (36℃以上の体温で安定した時期。対照軽微低体温群ではDAY5)

RBC × 10⁴/mm³ Bil mg/dL
 Hb g/dL Alb U/L
 WBC /mm³ AST (GOT) U/L
 Hct % ALT (GPT) U/L
 Pit × 10⁴/mm³ LDH U/L

CK U/L
 BUN mg/dL
 Cre mg/dL
 Na⁺ mEq/L
 K⁺ mEq/L
 Cl⁻ mEq/L
 Ca²⁺ mEq/L
 Mg²⁺ mEq/L
 BS mg/dL

APTT % sec
 PT % sec
 Fib mg/dL
 FDP UG/ml
 D-5'イマ UG/ml
 AT-III %

尿潜血 - ± + ++ +++
 尿糖 - ± + ++ +++
 尿蛋白 - ± + ++ +++
 尿カビリ - ± + ++ +++

ECG (モニター心電図可)

洞調律 上室性期外収縮
 心房細動 心室性期外収縮

心拍数 bpm

その他

前へ

次へ

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

Secondary end point GCS(Glasgow Coma Scale)

受傷後1週間(±1日)

評価日

E	V	M
○4 自発開眼	○5 見当識あり	○6 命令に従う
○3 呼びかけで開眼	○4 会話混乱	○5 刺激部位を認識
○2 痛刺激で開眼	○3 不適切な単語	○4 逃避反応
○1 開眼なし	○2 理解不能な音声	○3 異常屈曲
	○1 発声なし	○2 異常伸展
		○1 反応なし
GCS		

受傷後30日(±5日)

評価日

E	V	M
○4 自発開眼	○5 見当識あり	○6 命令に従う
○3 呼びかけで開眼	○4 会話混乱	○5 刺激部位を認識
○2 痛刺激で開眼	○3 不適切な単語	○4 逃避反応
○1 開眼なし	○2 理解不能な音声	○3 異常屈曲
	○1 発声なし	○2 異常伸展
		○1 反応なし
GCS		

タイトルページへ

転帰2へ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善観察と長遠的評価

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

**Primary end point
GOS(Glasgow Outcome Scale)**

受傷後3ヶ月(±2週間)

評価日

- GR Good Recovery: 予後良好 (軽度の障害があっても独立生活が可能)
- MD Moderate Disability: 中等度障害 (障害はあるが日常生活は可能)
- SD Severe Disability: 高度障害 (日常生活には介助が必要)
- PVS Persistent Vegetative State: 植物状態
- D Death: 死亡

受傷後6ヶ月(±2週間)

評価日

- GR Good Recovery: 予後良好 (軽度の障害があっても独立生活が可能)
- MD Moderate Disability: 中等度障害 (障害はあるが日常生活は可能)
- SD Severe Disability: 高度障害 (日常生活には介助が必要)
- PVS Persistent Vegetative State: 植物状態
- D Death: 死亡

死亡症例では死亡日、死亡原因を入力してください

死亡日

死亡原因

[タイトルページへ](#)

[高次脳機能検査へ](#)

医療機関名

科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号

割付

麻酔方法

合併症記録

当該傷病（頭部外傷）に起因するものは合併症として扱われません。

合併症の有無 有 無

- 重症肺炎† 急性肝不全 敗血症 血小板減少*
 重篤な不整脈 急性腎不全 DIC その他

†入室後48時間以内に診断されたものは除く
また、可能な限り起炎菌名を記載する。
* 血小板輸血が必要となったもの

経過の詳細、対応など必要事項を記入してください。 合併症発生日 (yyyy/mm/dd)

重篤な有害事象記録

当該傷病（頭部外傷）に起因しないもののみ記入してください。

- 死に至るもの（死亡）
 生命を脅かすもの（死亡につながる恐れのあるもの）
 治療のため入院期間が著明に延長するもの
 永続的に顕著な障害・機能不全に陥るもの（障害）

有害事象発生日 (yyyy/mm/dd)

重篤な有害事象発生の場合には速やかに処置を行い、患者の安全確保をはかって下さい。
また必ず主任研究者に連絡し、詳細については別に有害事象報告書を作成して下さい。

報告先 TEL:0836-22-2343、夜間・休日0836-22-2773 FAX:0836-22-2344

Treatment failure、脱落症例記録へ

タイトルページへ

超急性期軽度低体温療法による重症脳障害患者の予後改善戦略と医療費評価

医療機関名 科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号 割付 麻酔方法

Treatment Failure記録

Treatment Failureとなった理由、その後の処置 発生日

※Treatment Failureは脱落症例とは異なります。Treatment Failureとは患者治療を優先してプロトコルを逸脱した場合を指し、現在行いうるすべての治療法を選択できますが、データ収集は引き続き行います。

脱落症例記録

症例の脱落は患者あるいは代諾者からの同意撤回があった場合にのみ認められます。この場合には下の同意撤回にチェックをつけて、その日付と理由を記載してください。それまでのデータについての提出も否定される場合には、その旨を事務局までメールあるいはFAXにて報告してください。

同意撤回 脱落日

同意撤回の理由を簡潔に記載してください。

[タイトルページへ](#)

[合併症・有害事象記録へ](#)

医療機関名 科名

イニシャル 姓 名

症例登録番号 割付 麻酔方法

高次脳機能検査結果 (6ヶ月目に施行)

1. Mini-Mental Status Exam

時	年・月・日・季節・時刻	<input type="text"/>	/ 5
場所	県・市・病院名・科名・位置	<input type="text"/>	/ 5
記銘	みかん・電車・27	<input type="text"/>	/ 3
Serial 7	93・86・79・72・65	<input type="text"/>	/ 5
想起	みかん・電車・27	<input type="text"/>	/ 3
呼称	鉛筆・時計	<input type="text"/>	/ 2
復唱	ちりもつもればやまとなる	<input type="text"/>	/ 1
口頭命令	大小・半分に折る・渡す	<input type="text"/>	/ 3
書字命令	目を閉じる	<input type="text"/>	/ 1
文を書く		<input type="text"/>	/ 1
五角形模写		<input type="text"/>	/ 1

合計 / 30

2. Trail Making Test Part A 秒

Part B 秒

3. 動物名想起 (1分間)

正 個

誤 個

[タイトルページへ](#)

検査内容・施行方法は<https://center.unin.ac.jp/islet/bhypo/>よりダウンロードできます

鈍的外傷 ISS参照画面

ISS

頸部

○1 軽症 頭部外傷 2時間の頭痛、幻暈骨折/偏位を伴わない頸髓の伸展	○2 中等症 事故後の記憶喪失 嗜眠/昏迷 1時間以内の意識障害 頭蓋単純骨折 頸椎の小骨折	○3重症 意識障害(6h以内) 頭蓋底骨折 頭蓋複合骨折 脳挫傷/SAH 頸動脈内膜損傷 喉頭/咽頭挫傷 頸椎脱臼/骨折	○重症(生命危機) 意識障害(24h以内) 痛覚刺激のみ反応 2cm以上の陥没骨折 100ml以内の頭蓋内血腫 頸髓不全損傷 咽頭挫滅	○致命的(生存困難) 意識障害(24h以上) 脳幹損傷 100ml以上の頭蓋内血腫 C4以下の頸髓完全損傷
--	---	---	---	---

顔面

○1 軽症 角膜擦過傷 舌挫折裂傷 鼻骨/舌骨骨折 歯牙損傷	○2 中等症 LeFort I型骨折 頬骨/眼窩/下顎骨骨折 強膜/角膜損傷	○3重症 LeFort II型骨折 視神経挫裂創	○重症(生命危機) LeFort III型骨折	○致命的(生存困難)
--	---	--------------------------------	----------------------------	------------

胸部

○1 軽症 肋骨骨折 骨性胸郭挫傷 胸骨挫傷 胸椎挫傷	○2 中等症 2-3本の肋骨骨折 胸骨骨折 胸椎挫傷 胸椎棘突起/横突起骨折 胸椎小圧迫骨折(<20%)	○3重症 肺挫傷/裂傷(1葉) 片側血気胸 横隔膜破裂 4本以上の肋骨骨折 気道熱傷(小) 胸椎椎弓骨折 胸髓振盪	○重症(生命危機) 肺挫傷/裂傷(複数葉) 両側血気胸 縦隔血腫/気腫 横隔膜破裂 frail chest 緊張性気胸 胸髓不完全損傷	○致命的(生存困難)
---	---	--	--	------------

腹部

○1 軽症 陰囊、陰、会陰部擦過傷/表在性裂創/挫傷 腰椎捻挫 血尿	○2 中等症 消化管、腸間膜、尿管等の挫傷/表在性裂傷 腎、肝、脾小挫傷/裂傷 腰椎小骨折 腰髄神経根損傷	○3重症 小腸、腸間膜、尿管等の穿孔 腎、肝、脾大挫傷 腹腔内出血(>1000ml) 後腹膜血腫 腰椎骨折 腰髄損傷(横断症状)	○重症(生命危機) 胃、十二指腸、大腸、直腸の穿孔 消化管・尿管狭窄 肝裂傷 腸骨動脈大裂傷 腰髄不全損傷 胎盤剝離	○致命的(生存困難) 組織欠損または大量汚染を伴う十二指腸・大腸の穿孔 肝/脾/腎/膀胱の複雑破裂 腰髄完全損傷
---	---	--	--	---

四肢

○1 軽症 肘、肩、手首、足首打撲 手指、足趾脱臼/骨折 四肢関節の捻挫	○2 中等症 上腕骨、腓骨、鎖骨、肩甲骨等の骨折 単純骨盤骨折 肘・手・肩の脱臼 主要筋、腱挫裂創 主要動静脈の内膜損傷/小裂傷	○3重症 骨盤複雑骨折 大腿骨骨折 手首/足首/膝/股関節脱臼、膝靭帯断裂 膝下または上肢切断 大動脈内膜損傷/小裂傷	○重症(生命危機) 骨盤粉碎骨折 膝上での切断/粉碎 大腿、上腕動脈の大裂傷	○致命的(生存困難) 開放性骨盤粉碎骨折
---	---	--	---	-------------------------

外表

○1 軽症 I度熱傷 II/III度熱傷(<10%) 表在性裂創<10cm 擦過傷<50cm(顔/手ではその半分)	○2 中等症 II/III度熱傷(10-19%) 表在性裂創>10cm 擦過傷>50cm(顔/手ではその半分)	○3重症 II/III度熱傷(20-29%) (同等の範囲のdegloving injury)	○重症(生命危機) II/III度熱傷(30-39%) (同等の範囲のdegloving injury)	○致命的(生存困難) II/III度熱傷(40-89%) (同等の範囲のdegloving injury)
---	--	---	--	---

戻る

鋭的外傷 ISS参照画面

ISS

頭頸部

○1 軽症 臓器損傷のない 頸部鋭的損傷	○2 中等症 臓器損傷のない 頸部鋭的損傷	○3 重症 組織損傷/臓器損傷を 伴う頸部鋭的損傷 頸動脈/椎骨動脈/内 頸動脈の小裂創 頸静脈の欠損 咽頭、喉頭表層裂創 甲状腺裂創	○重症(生命危機) 神経脱落症状を伴 う動脈小裂創 頸動脈/椎骨動脈/ 内頸動脈横断損傷 内頸静脈部分欠損 咽頭、喉頭穿孔	○致命的(生存困難) 貫通した鋭的損傷 大脳、小脳鋭的損傷 頸髓裂創 完全頸髓損傷 喉頭、咽頭複雑裂創 頸動脈/椎骨動脈部分欠損
----------------------------	-----------------------------	--	---	--

顔面

○1 軽症 臓器損傷のない 鋭的損傷	○2 中等症 表在性組織損傷 を伴う鋭的損傷	○3 重症 大きな組織欠損 を伴う鋭的損傷	○重症(生命危機)	○致命的(生存困難)
--------------------------	------------------------------	-----------------------------	-----------	------------

胸部

○1 軽症 胸腔内に至らない 鋭的損傷	○2 中等症 胸管裂創 胸膜裂創	○3 重症 肺裂創(1葉) 片側血気胸 横隔膜裂創 気管/気管支/食道表 在裂創 無名静脈、肺動脈、 鎖骨下静脈表在裂創	○重症(生命危機) 表在性大動脈裂創 主要動静脈裂創 気管/気管支/食道穿孔 複数葉肺裂創 縦隔血腫・気腫 両側血気胸 心タンポナーデ	○致命的(生存困難) 大動脈大裂創 主要動脈横断裂創 組織欠損を伴う気管/気 管支/食道裂創 緊張性気胸 1000mlを超える血胸 胸髓裂創
---------------------------	------------------------	---	--	---

腹部

○1 軽症 腹腔内に至らない 鋭的損傷	○2 中等症 胃/小腸/腸間膜/膀胱 /尿管/尿道/腎/肝/脾 の表在性裂創 腹膜の裂創	○3 重症 主要動脈の表在裂創 十二指腸/大腸/直腸の 表在性裂創 小腸/腸間膜/膀胱/尿管 の全層性裂創 1000ml以上の出血を伴 う腎/肝/脾小裂創	○重症(生命危機) 大動脈小裂創 小動脈の大裂創 腸骨静脈そのほかの 静脈横断裂創 大量汚染を伴う小 腸・膀胱損傷 腸間膜/膀胱損傷	○致命的(生存困難) 大動脈大裂創 組織欠損または大量 汚染を伴う十二指 腸・大腸の裂創 組織欠損を伴う肝/脾 /腎/脾損傷 腰髓裂創
---------------------------	--	--	---	--

四肢

○1 軽症 上腕静脈その他静 脈の表在性裂創	○2 中等症 内部構造の損傷を伴わ ない単純鋭的損傷 主要動脈の表在裂創 主要静脈の大裂創 正中/大腿/脛骨/腓骨の 神経損傷	○3 重症 内部構造の損傷を伴う 複雑鋭的損傷 大腿動脈表在裂創 膝窩動静脈/膝窩動静脈 /大腿静脈の大裂創 同一肢での複数神経損 傷・複数筋断裂	○重症(生命危機) 上腕動脈/大腿動脈 の大裂創 上腕動脈/膝窩動脈/ 膝窩動脈の部分欠損	○致命的(生存困難) 大腿動脈の部分欠損
------------------------------	---	--	---	-------------------------

体表

○1 軽症 組織損傷のない鋭的損 傷 体表10cm以内、頸/手 5cm以内の表在裂創	○2 中等症 組織損傷を伴う鋭的損 傷 体表10cm以上、頸/手 5cm以上の表在裂創	○3 重症	○重症(生命危機)	○致命的(生存困難)
--	---	-------	-----------	------------

戻る